

生命の誕生

5年	チャック付きビニル袋を使って 簡単に
	卵の個別飼育

メダカ卵は、体が形成されていく過程や心臓の拍動の観察など、生命を直接感じとることができる優れた教材であり、授業時間内の観察だけでは物足りなさを感じます。子どもに個別飼育をさせながら、教室内で常に観察できる環境を整えることで、継続的な観察が可能になります。

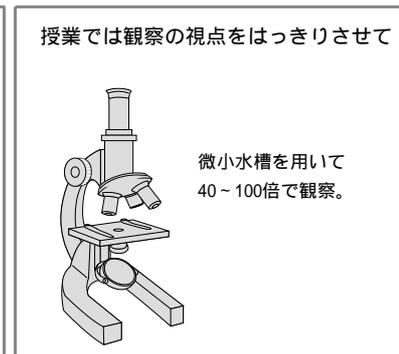
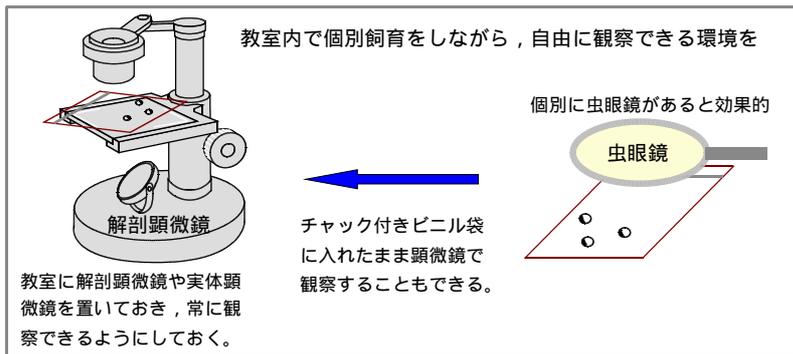
チャック付きビニル袋での飼育



1 チャック付きビニル袋で簡単に個別飼育

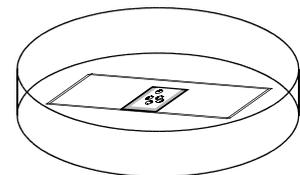
- ・チャック付きビニル袋は70mm×50mmの大きさのものが使いやすい。
- ・メチレンブルー入りの水道水（あるいは水道水）と共にメダカ卵を入れる。
- ・直射日光が当たったり、温度変化が激しい場所には置かない。
- ・2～3日に1回水換えを行い、死んでしまった卵は必ず除去する。

2 観察の環境を整える



同じ卵の継続観察

- ・微小水槽に卵を入れ、スライドグラスごと培養液の入ったペトリ皿に完全に沈めてしまう。この状態で双眼実体顕微鏡や解剖顕微鏡のステージにセットし、教室内に置いておけば同じ卵を継続的に観察することができる。（ペトリ皿内の水は3日に1回は取り替えること）



色のうすいものを観察するときには・・・

メダカの卵は透明に近く、肉眼や虫眼鏡、実体顕微鏡などで観察する場合、背景が白いとわかりにくく、黒い背景での観察が適しています。産卵後3日程度で体に色素ができればはじめ、眼もはっきりしてきます。3日目以降は逆に色の付いた部分が観察のポイントになりますので、背景が黒よりは白い方が観察しやすくなります。子どもはなかなか判断できないので、教師側でしっかりと指示する必要があります。

